

基礎学力研究部

本年度の取り組み

- ・基礎学力向上を目的として、朝学習（算数タイム、国語タイム）を計画的に実施した。問題は、県学調の結果から分析した学年ごとの課題に合わせて選び、長期休業中に準備した。
- ・朝学習に活用タイムを新設し、国語と算数の活用問題へ取り組む機会を設けた。
- ・朝学習の取り組みや内容に学年ごとの違いが見られたので、学校として統一できるよう話し合った。

成果

- ・次年度、学校全体で取り組むことを決め、3学期に試行することができた。
- ・国語、算数タイムは、年間通して内容を明確にし、学年ごとに統一したことができるようにした。
- ・次年度の国語、算数タイムの問題作成を3学期中に行えた。
- ・活用タイムの実施により、児童が発展的な問題に取り組む機会増やすことができた。特に、学力が上位の児童が、楽しみながら活用力を身に着けることができた。
- ・来年度の取り組みを、以下のように決定することができた。
 - 1 学校全体で取り組むこと
 - 国語：①短文づくり（授業に取り入れる）
一文から二段落構成（条件付き作文）で書けるようにしていく。ねらい（身につけたい力）は、国語部にしぼってもらう。
 - ②視写・・・説明文のみ実施。（宿題や自習を利用して取り組む。）
 - 算数：①計算タイム（答え合わせも含め、5分間で実施する。）
たし算、ひき算、かけ算、わり算を、週2～3回実施する。
 - 2 来年度の朝学習の取組についての方向性について
 - ・国語、算数タイムについて
5分以内に実施できる学習に取り組む。・・・（1月中は漢字の取組を行う。）
基本は、他校の実践例や市販のプリント集を活用する。
プリントは綴じて、1年生はB4サイズ、2～6年生はA4サイズで保存する。
 - ・活用タイムの名称をチャレンジタイムとする。
 - 3 来年度の補習教室
 - 夏休み中、前半・後半の二回実施する。
 - 前半：近隣の高校生や中学生に学習ボランティアとして来てもらい、算数の補習教室を実施する。
きめ細やかな指導が行えるよう、対象児童の数を絞ることとする。
 - 後半：補修教室（児童が課題を持参し、自由に参加する。）を今年度通り、実施する。

課題

- ・活用タイムの時間内に課題が終わらない児童が見られるので、どう最後まで見届けるか、方法を検討する必要がある。
- ・実態に合った活用タイムの問題が不足しているので、問題を集める必要がある。